

# モードは語る

中野 香織

## 精緻な手仕事に感嘆

駐日パレスチナ大使夫人のマーリ・シ  
アムさんが11月初旬、東京・青山にて「パ  
レスチナと日本—伝統衣装展示会」を開  
いた。

鮮やかな色彩のテキスタイルにほどこ  
された緻密な刺繍（ししゅう）が目をひ  
く伝統衣装は、マーリさんの義母、駐日  
パレスチナ大使の母の私物である。ヘッ  
ドドレスはじめ装身具にコインが多用さ  
れているが、円形のコインは永遠の象徴  
にして幸運のお守りだという。

同時に展示されているのは、日本の帯  
である。パレスチナ伝統の刺繍が施され  
ている。パレスチナを訪れ、伝統刺繍に  
魅せられた山本真希さんが2013年に立ち

### パ レ ス チ ナ の 刺 繍

上げた「OBIプロジェクト」のたまも  
のだ。伝統技術をもつ現地女性にデザイ  
ンを指定して刺繍を発注し、日本で職人  
が帯に仕立てて売る。パレスチナ人には  
難民キャンプで暮らす人も多い。同プロ  
ジェクトは現地女性の経済的自立を助け  
ると同時に、パレスチナと日本で先細り  
の伝統を守り続けることも目指す。

モチーフは、中東の女性必携のコホル  
（アイライナーとして使う粉状化粧品）  
のつぼなど中東風だが、それを抽象化し  
て表現し、帯に溶け込ませる技術は日本  
的。着物においては、万物を抽象的で幾  
何学的な模様に変える知的表現が、日本  
らしさとして海外から評価されている。



パレスチナ風の意匠を織り込んだ帯

それにしても、気が遠くなりそうなほ  
どの精緻な手仕事である。4疋の布の刺  
繍に3～6カ月かかる。実はかつて中東  
には「刺繍は、仕事がないことを意味す  
る」という言葉もあった。圧巻の刺繍は、  
ひたすら手を動かすことに集中すること  
で、不安な時間を豊かな時間へと変えて  
きた女性たちの知恵のたまものであった  
のかもしれない。結果として地域ごとに  
異なる意匠や技法が生まれ、女性の創造  
性や教養の証しともなり、伝統文化にな  
った。いまや文化交流にも貢献している。

現代の私たちは、正倉院に古代オリエ  
ント由来の文様を見て、当時の中東と日  
本の文化交流に思いをはせる。この帯も、  
未来の人々にとって、21世紀の世界に対  
するイメージーションを刺激する貴重な  
宝になるだろう。

（服飾史家）